



わたしたちが思う 恵那のコト

voice
01

Our voice

恵那は隠れた魅力も
いっぱい！



恵那市内で“はたらく”
わたしの想い

市の職員として
貢献できるようになりたくて

profile

林あや乃さん 笠置町出身

中学生のとき地元の魅力をPRする授業があり、ユズもぎ体験や農家さんの話などを通して特産品の奥深さを知りました。父も地元で貢献したいという思いを持っていて、家庭でまちづくりの話をする機会も。早く恵那市の課題解決に貢献したくて、高校卒業後は恵那市役所に就職しました。恵那の魅力を伝えられる職員になりたいです。



市役所の窓口業務を行う

voice
02

Our voice

子どもの背中を
押せるような存在に



まだまだ“まなぶ”
わたしの想い

地域に見守られながら
育んだ夢

profile

成瀬晃輔さん 串原出身

串原では毎年、小・中学校、こども園、町民の合同運動会が開催されます。ある年、先生が引っ込み思案だったぼくを運動会の代表あいさつに抜擢してくれました。緊張しましたが大勢の前であいさつすることができ、それ以降人前で話すことに自信が持てるようになりました。恩師のような親しみやすい教師になるのが夢です。



小学校図画工作の授業構想

voice
03

Our voice

地域に根差した
医療を届けたい



まだまだ“まなぶ”
わたしの想い

地域医療を志しつつ、
伝統芸能でも恩返し

profile

鈴木果恋さん 中野方町出身

私の祖父は自身の希望で、在宅介護ののち家族に囲まれて亡くなりました。それを見て訪問看護や地域医療に興味を湧き、現在看護大学で学んでいます。また、中野方の伝統芸能である「めれた囃子」の保存活動はこれからも続けたいことの一つ。地域医療や伝統芸能の保存によってコミュニティに貢献したいと思っています。



地域の祭りでめれた囃子を演奏

2004年(平成16年)に1市4町1村が合併し、現在の恵那市が誕生。同じく恵那市合併の年に生まれた”エナっ子”たちは、今年20歳を迎えます。20歳となるにあたって恵那へ抱く思い、そしてそれぞれが願う夢や目標について聞きました。

voice
04

Our voice

地域の方を
助けられる存在に



恵那市外で“はたらく”
わたしの想い

父の背中を追って
夢の消防士に

profile

後藤凱さん 岩村町出身

小さい頃から父と同じ消防士になりたいと夢見ていました。実際に消防士になって初めて父の苦勞を知るとともに、地域のために働きたいと強く思うようになりました。また子どもの頃から岩村の山で遊んでいましたが、現在は消防士仲間と上矢作の山へ溪流釣りに行ったり、自然の中をバイクで走ったりしています。恵那の自然は宝です。



救助活動の訓練「ロープブリッジ」をする

voice
05

Our voice

歴史地理から
恵那を深く掘りたい



まだまだ“まなぶ”
わたしの想い

今のわたしを形づくった
中学の自由研究

profile

高綱亜利沙さん 山岡町出身

家族の影響で歴史や伝統的なものがもともと好きでした。それをさらに深めたのが中学生のとき。恩師が岩村城など歴史の自由研究を熱心に指導してくれたのがきっかけで、社会科教師になりたいと思うようになりました。今は歴史地理学を大学で学んでいます。重伝建地区の比較などふるさとの役に立つ研究にも興味があります。



大学で古地図を読む

voice
06

Our voice

恩師のように
熱意あふれる教師に



まだまだ“まなぶ”
わたしの想い

恩師に憧れ
体育教師を目指す

profile

小木曾里玖さん 上矢作町出身

中学校のときの恩師に憧れて体育の教師を目指し、大学で学んでいます。教育課程はとてもハード。教師になるって大変だと日々感じています。山や川など、ぼくが育ってきたような自然豊かな恵那市であってほしいと思う一方で、交通の便の関係で高校の選択肢が少なかったため、将来的には改善されるといいなと思います。



高校時代は弓道に励み全国大会へ